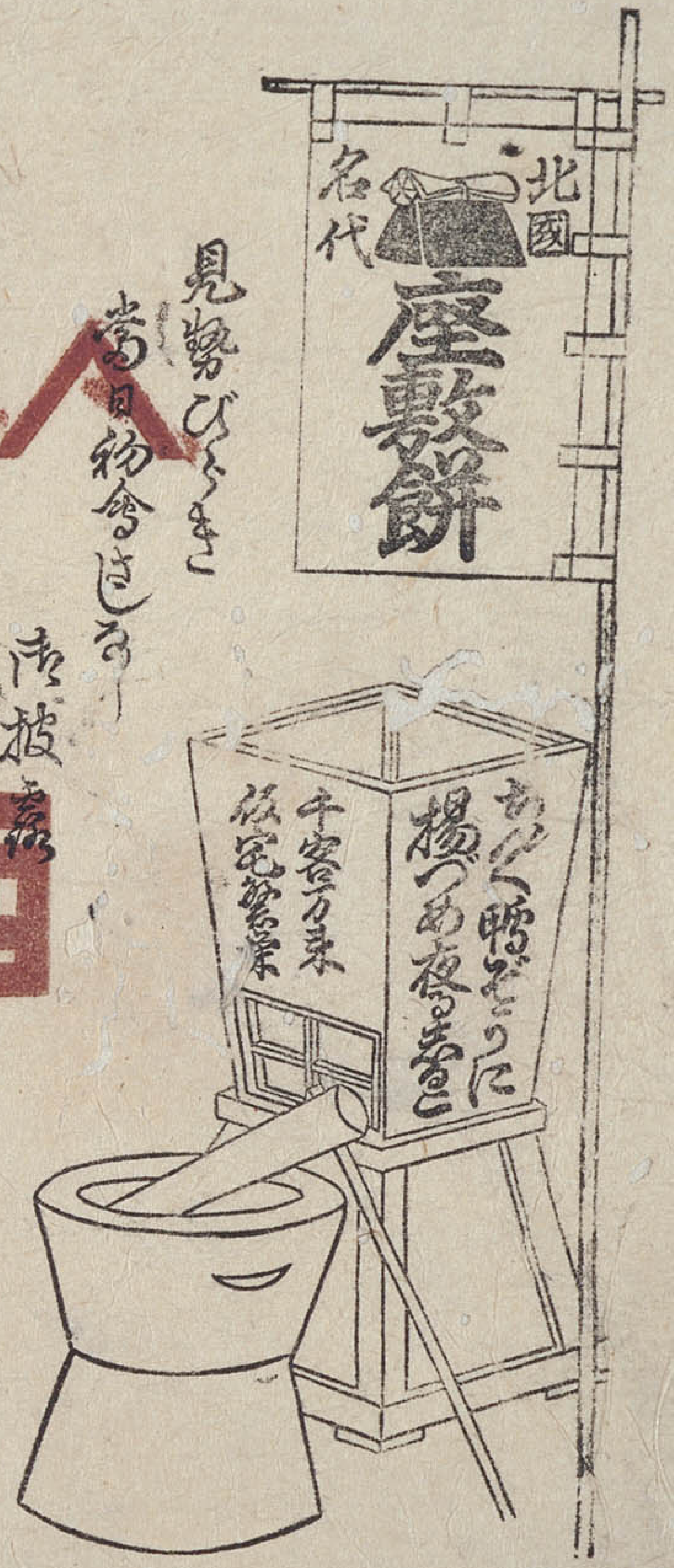
北國
名代
座敷餅
おゝく賑ぞうに揚づめ夜る昼も
千客万来
仮宅繁栄

見勢びらき
當日物含さしあげ

御披露

一 御客様方益御機嫌能被遊恐悦至極に奉存候随而私儀旧冬新焼後仮宅出張をかまへ名代座敷のもちを始め突出し新屋もちある肉つき羽二重まんぢう格別風味よろしき代ならこ座もちたいこのもちまで大家実仕当昼夜をわけて相尚く御来駕の程奉願上ゆへもちの輪縁りかをるし御上られゆるへ網結焼をせらしの強の金のもちふゆとも身もちぞくづし女郎りちに焼のもちれさらに出来身もちは戎様まつさいかるあのすとめでたくあづまも来永くよろこびの福仕る奉願上候以上

突出し新屋もち　昼夜　三分

肉つき羽二重まんぢう　御好次第

座のもち太鼓もち　祝儀　百疋

出張
深川七場所
仮宅屋喜六郎

本家
浅草山の宿花川戸町
老乱屋斜述